

## 研修報告書

三原市立第五中学校  
教諭 花岡 望

### 1. はじめに

平成 24 年 7 月 24 日(火)から 8 月 13 日(月)までハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ(KCC)での広島県英語担当教員語学研修に参加した。

この研修を通して私はいくつか達成すべき目標を立てた。これらはこの研修に参加した動機でもある。第一に、生徒の英語力,とりわけ書く力を改善する方法を学ぶこと。第二に、自分自身の英語力や英語教授力を改善すること。第三に、ハワイについて多くを学ぶことなどであった。

日本を出発する前は、私にとって初めての海外での学習やホームステイだったため少し緊張していた。このすべての研修を終えることができるのだろうか本当に不安だった。しかしながら、一方ではこの研修に参加することをずっと楽しみにして待っていた。この報告書では、今回の研修を振り返り、私が KCC で学んだことについて述べたいと思う。

### 2. KCC での研修

KCC はダイヤモンドヘッドの麓に位置し、大きなサボテン公園、海や山の美しい景観など素晴らしい自然に囲まれている。多くの小鳥がやって来て、キャンパスで陽気に囀っている。このような素晴らしい環境で学べたことは私にとって本当に幸せなことだった。KCC には各国からの来た約 8000 人の生徒が在籍しており、フードサービス学部などの独特な学部もある。この研修の間サマースクールに参加している多くの学生たちに出会った。

この研修では、Content-Based Integrated Skills Instruction(CBI)：内容中心教授法が主なテーマだった。指導者は学習内容を焦点化し、4 技能(聞くこと、話すこと、読むこと及び書くこと)を統合する。学習者はブレインストーミングし、内容のテーマに基づいたイメージを膨らませる。インターネットで検索したり、テーマに関する資料を読んだりする。自分でテーマを選ぶことで自然に学ぼうとする意欲が高まる。指導者は学習者が最後のレポートを仕上げる前に、学習者に対してフィードバックを繰り返す。学習者同士でテーマについて話し合い、スピーチをする。こうして、学習者は学習活動を通して効果的に 4 技能を習得することができる。

講義や研修を受けた後、最終的には次の 4 つの困難な課題を遂行しなければならなかった。手順は次の通りである。

- (1) 自分の教育哲学を書くこと
- (2) 学習指導案を作り、模擬授業をすること
- (3) 英語教授に関する研究レポートを書くこと
- (4) パワーポイントを用いて研究の発表を行うこと

## 2.1 教育哲学

模擬授業案や研究論文を書く前に、自分たちの教育哲学についてのレポートを書き始めた。まず初めに、ブレインストーミングを行った。「自分の生徒に達成させたい目標は何か」、「自分の生徒は何を必要としているのか」或いは「どの理論が統合されたスキルのカリキュラムに適合するのか」などの「パズル」クエスチョンと呼ばれる質問が幾らかあった。

私は次の課題に基づいたレポートを書くことに決めた。「なぜ私は教えるのか」、「何の動機付けが生徒を学ばせ向上させるのか」そして「自分はできうるかぎり一番良い先生になれるのか」である。

レポートの内容についてディスカッションしながら Malm 教授は何度も私のレポートを直してくださった。私はフィードバックに基づき何回か下書きを書き直した。結果として、私はどうにか課題を終えることができたのだ。この過程で、私は書く力が向上しているのを感じることができた。私はプロセスライティングと呼ばれるこの活動により興味、関心をもつことになり、よりクリエイティブになった。

## 2.2 模擬授業

教育哲学を書き終えた後、模擬授業の指導案の作成に取りかかった。私は自分の使っている教科書の文法パターンの「have to」を使おうと決めた。

Malm 教授は指導法に基づいた幾らかの活動例を紹介した。それら全てが授業で使えるようになった。「内容中心の統合されたスキルの活動を通じて文書によるコミュニケーション能力を改善するための日本の EFL 生徒の Motivation を高める活動」という自分の研究に基づいた指導案を作成した。研究発表の前日に、この研修で学んだ教授法に関連する模擬授業を行った。

模擬授業の指導案を作成しながら思ったことは、指導者はその生徒のためにより興味深い指導法を探し出す努力をしなければならないということである。そうすることで生徒はより相互活動の機会を持って、より効果的に学ぶことができるということである。

私たちは模擬授業を終えた後で、互いに意見を出し合い、よりより授業づくりのための素晴らしいアドバイス(フィードバックやコメントについてなど)を幾らか受けることができた。

## 2.3 研究論文

研究論文を書くことが私たちにとって最大の課題だった。私は「内容中心の統合されたスキルの活動を通じて文書によるコミュニケーション能力を改善するための日本の EFL 生徒の Motivation を高める活動」というテーマを追求することに決めた。

この研修に参加する前は、いかに生徒の書く力を伸ばしていくのかだけに焦点を当てていた。なぜならこれが私の学校の大きな課題だからだ。しかし、私は生徒の動機付けを促すことがもっと大切なことや、英語を理解するときには最低でも 2 つ以上のスキルが必要であることに気付いた。

私のゴールは私の生徒の書く力を改善し伸ばすことである。第二外国語の学習者は4つの言語技能を改善するために2技能以上を得る必要がある。4つの言語技能分野のそれぞれが、その他の分野の言語学習を強化している。だからできる限りそれらを結びつけた方がより良いといえる。それ故に統合されたスキルの活動が必要となる。生徒はそれに強い動機付けをし、記憶を促進する。これは私の研究論文の一部である。

研究論文を書くことは私にとってもっとも困難なことであったが、Malm 教授から多くのアドバイスやフィードバックを受けることができた。そしてついにやり遂げることができた。この課題を通じ、本当に貴重な時を過ごすことができたと思っている。

## 2.4 プレゼンテーション

私たちは最終日に聴衆の前で研究について英語でのプレゼンテーションを行った。パワーポイントのプレゼンテーションは私にとって初めてのことで、挑戦だったため、かなり緊張した。

私は効果的なプレゼンテーションをするために、研究論文からキーワードや本旨を取り上げようとした。何度も練習をした。Malm 教授は良いスピーチのためには聴衆の方を見ることであるとアドバイスを与えてくれた。積極的にコミュニケーションしようとする姿勢は完璧な英語を話そうとすることよりも大事なことであるということも教えて下さいました。

スピーチを終えた後で、幾らかの質問を受けた。私たちはたくさん話し合うことができた。このプレゼンテーションは、私の意欲を高めるとともに、自信を付けさせてくれた。

## 3. 校外学習

### 3.1 ハワイ州教育委員会への訪問

7月27日、私たちはハワイの教育委員会であるDOEを訪問し、ハワイの公教育についての説明を聞いた。この2年、ハワイは経済的な問題が起こっている。ハワイの公立学校は月7日が休みになる。州が教員に対して十分なお金を払うことができないからだ。私はこれを聞いて驚いた。

チャータースクールについても聞いた。チャータースクールの数はこの5年間増え続けている。2種類のチャータースクールがあり、ハワイの文化や言語を学ぶことができる学校と、テクノロジーについて学ぶことができる学校がある。今チャータースクールは人気である。なぜならハワイ文化の復興が起こっているからだそうだ。

学校の補助金はハワイ州や地方自治体、企業などから支払われている。

### 3.2 プランテーションビレッジとビショップミュージアムへの見学

8月3日に私たちはMalm 教授とともにプランテーションビレッジとビショップミュージアムを訪れた。

プランテーションビレッジではハワイへの移民の歴史を学んだ。多くの移民がお金を稼ぐためにハワイに移ってきた。低賃金にもかかわらず、一日に10時間以上も働かなければならなかった。しかしながら、彼らは互いに助け合い、今日のハワイにおける地位を築いた。

ビショップミュージアムでは、ハワイ王朝の歴史について知り、カメハメハ王家の展示物の多くを見た。その後でフラダンスについての話を聞き、フラダンスの基本の形を真似てみた。フラダンスの動きには意味があることがよく分かった。ダンスを踊ることは難しかった。

このフィールドトリップを通して、ハワイの文化や歴史に大変興味を持った。

### 3.3 ホームステイ

私たちは8月3日から5日までホームステイをした。私はホームステイをするのは初めてだったのと、直前までホームステイについての情報を得ることができなかったために、ホストファミリーと出会う前は少しばかり緊張していた。

私のホストファミリーはとても親切だった。ホストファザーは「自分の家にいるよに過ごして下さい。」と言ってくれた。この言葉のおかげで、リラックスすることができた。ホストマザーはやはり良い方で、「あなたの英語の発音は素晴らしい。」と言ってくれた。それを聞いて率直にうれしかった。ホームステイで英語を話すことに自信が持てた。ホストサンのエイデンとよく遊んだ。彼は7歳の男の子で私たちは家のプールで泳いだり、トランプをしたりするのを楽しんだ。私が竹とんぼのやり方をやって見せた後で、エイデンと彼の妹のルーシアは興味を持って、何度も遊んでいた。

ホストファミリーは私を色々な場所に連れて行ってってくれた。滝のある所にハイキングに行ったり、ビーチに泳ぎに行ったり、買い物にも行ったりした。私は彼らと心地よく、素晴らしい時を過ごすことができた。彼らはいつも私を家族の一員として受け入れて下さった。私はアメリカの生活様式を経験することができた。授業を通して生徒たちに多くのことを伝えていきたい。私は彼らといつまでも連絡を取り合っていきたいと思っている。

### 4. まとめ

この3週間の研修は私にとっては本当に困難で大変な内容だった。毎晩多くの課題に取り組み、睡眠不足の状態が続いた。本当のことを言うと、この研修の私の最終目標が達成できるのかどうか不安だった。しかしながら、いつでも、Malm 教授や他の2人の参加されている先生方、浅谷先生と上元先生の励ましやアドバイスがあった。研修を終えて修了証書をいただいた時は、本当に幸せで感謝の気持ちでいっぱいだった。

この研修を通じて学んだ効果的な技法や活動を活用していきたいと思っている。

「CBI 理論に基づいた統合されたスキル」や「ブレインストーミング」「相互作用」「批評的思考」「肯定的フィードバック」などがそうである。私は生徒がより自信をもって英語を学習し、動機付けを改善していけるように支えていきたいと思う。そ

のためにより興味深い教材を探す努力をしたい。生徒たちは交互活動をする機会をより多く持て、より効果的に学習することができるからだ。

最後に、今回ハワイでの多くの貴重な経験を与えてくださった広島県教育委員会をはじめ、KCCの教授の方々、そしてコーディネーターの先生、研修をともにした素晴らしい先生方、お世話になった全ての方々に心から感謝申し上げたい。